

2023年2月21日(火)

老球の細道717号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」⑫

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ドイツ人は日本人と同じように規律正しく、几帳面であるとよく言われるが、トステイン氏も例にもれない。私と出会ってからずっとクリスマスカード(年賀状)を英文で送ってくれている。今年もチェコから届いた。彼の文章にはいつもアインシュタインの箴言が書かれてあり、おおいに触発される内容である。今年の文面は下記の通り(英文を俺流で訳したものである)。

【人生は偉大な教師である。人生は誰にでも可能性のあることを教えてくれる。

この2年間、世界は健康と平和が最も大切なプレゼントであることを学んだ。

新しい年、新しい可能性、私たちの心はパワフルにみなぎっている。私たちがポジティブな考えで満ちている時、新しい年は冒険とチャンスに満ち満ちている。

人生は時々厳しくもある。

今年もあなたが平和と健康とポジティブでありますように。

あなたと家族にとって最高の年になりますように】

前回は佐藤光壺先生の大宮北高校をはじめ近隣の強豪校へ遠征試合をした話で終わった。そのうちに会高バスケットOB会から県外の強豪チームを会津高校に来てもらって招待試合をしたかどうかという話が出て来た。

私が会津高校に赴任してからOB会事務局長の直之勝氏にアシスタントコーチを依頼していた。この直之氏のバックアップのおかげで会高バスケット部は色々なことにチャレンジすることができた。毎日の練習指導のお手伝いのみならず、OBからの資金援助、OB会誌『パス&ラン』(年1回発行)の発行、試合応援招集、そして保護者会との連携など数えきれないくらいの支援を受けた。現在の高校部活動は先輩、現役のつながりがほとんど喪失してしまったが、当時を振り返ると私はどれだけ恵まれた環境の中でバスケット指導ができた幸せ者だったのか、直之氏、故荒井康雄氏(東京OB会長)に感謝、感謝である。

夏休み、冬休みは外に遠征に出かけていたので春休みに招待試合をやろうとOB会、保護者会の間で話がまとまった。もちろん私は願ってもないイベントなので大賛成である。1998年3月に第1回「学而(会高生徒会の愛称)カップ」と称して、大宮北高校、長井高校(山形)、泉館山高校(宮城)、会津高校の4チームでカップ戦を行った。

2年間実施したら色々なチームから参加希望が寄せられたのでカップ戦からフェスティバル戦に変え、期間も2日間から4日間に延長した。会津地区の強化も考慮して地元チームも参加するようになった。選手は春休みになると会津協会のフェスティバル試合と会津高校のフェスティバル試合で実力がみるみる向上したことを思い出す。

大宮北高校も何度か参加するうちに2002年トステイン・ロイブル氏を同行して会津高校へやって来た。この時が彼と私の運命の出会いとなった。 <続く>